



2-1 地域福祉の推進

人と人がつながり、地域の人々で助け合い支え合う環境づくりを進めます。

■施策の展開内容

子どもから高齢者まですべての市民が、地域で安心して暮らせる地域共生社会（※1）を目指し、地区の特色を活かしながら、自助・互助・共助・公助（※2）それぞれが役割を担い、人と人のつながりや支え合いの推進体制を充実していきます。

（※1）地域共生社会

地域で暮らすすべての人が、生活の楽しみや生きがいを持ち、さまざまな困難を抱えた場合でも、社会から孤立せず、支え合いながら安心してその人らしい生活を送ることができる社会のこと。

（※2）自助・互助・共助・公助

自助…自立した生活を送るための自発的な取組

互助…地域に住む人が協力しあう日常的な活動

共助…相互の費用負担で成り立つ社会保障制度

公助…自助・互助・共助では対応できない状況に対して、行政が責任を持って提供する公的福祉サービス

■現状と課題

- 家族内や地域において助け合いのつながりが薄れており、また、単身世帯や核家族世帯の増加により、孤立してしまうリスクが高まっています。地域住民の福祉に対する考え方を深め、地域で支え合う福祉を充実させるため、障害の有無や年齢、性別などに関わらず、すべての人が住み慣れた地域や家庭で、ともに生きるという考え方を前提とした社会をつくる必要があります。
- 福祉施策の展開には、地域に精通する民生委員・児童委員の協力が必要ですが、地域によっては、担い手が少ないことから、欠員地区が生じています。欠員地区を解消するために関係機関と協力し、定員を確保していく必要があります。
- 社会や地域とのつながりが薄れることで、孤立する高齢者や障害者が増えています。高齢者や障害者が社会参加しやすくなるよう、外出を支援していく必要があります。
- 手術時の輸血や白血病の治療に必要となる、輸血用血液や骨髄ドナー登録者が不足しています。定期的な献血の機会の提供や、骨髄ドナー登録者の増加を図る必要があります。
- 市内の社会福祉法人がさまざまな福祉サービスを提供しています。社会福祉法人が適正な運営を図れるよう、的確な指導監査を行う必要があります。
- 高齢者や障害者の増加により、成年後見制度の利用を必要とする人の増加が見込まれます。成年後見制度の周知を進め、利用しやすくする必要があります。

■主な取組

人と人のつながりや支え合いの推進体制の充実

- 障害の有無や年齢、性別に関わらず、すべての市民が地域でともに支え合う意識の啓発や自治会・まちづくり協議会などとの連携を強化し、地域で安心して暮らせる地域共生社会を目指します。
- 高齢者や障害者が孤立することのないよう、外出や移動がしやすい環境を整備します。
- 自宅で誰にも気づかれずに亡くなり、死後発見される「孤立死」を防ぐため、市内外のライフライン事業者や配送事業者、福祉事業者と連携し、孤立した状態で生活困窮に陥っている市民をいち早く発見し支援します。
- 認知症や障害の状態にともない判断能力が低下し、生活に支障が生じている人が尊厳を持って生活できるよう、成年後見制度活用に対する支援を実施します。
- ごみを集積所まで出すことが困難で、他に協力が得られないひとり暮らしの高齢者や障害者に対し、声掛けを行いながらごみを戸別収集することで生活を支援します。
- 血液の安定供給に寄与するため、日本赤十字社の献血事業を支援します。
- 骨髄移植の登録者と提供者を増やすための取組を支援します。
- 福祉サービスを提供する社会福祉法人に対し、運営状況や会計管理状況などについて、指導監査をよりの確に実施していきます。

■ 施策指標

指標名	現況値	目標値	備考
民生委員定員充足割合	89.7% (R1)	100%	
社会福祉協議会のボランティア登録者数	6,259 人 (R1)	8,800 人	
孤立死の件数	2 件 (R2)	0 件	

■ 施策の満足度・不満足に関する指標（現況値は令和元年の市民アンケート結果を記載）

【地域で支え合う福祉の充実】

※令和元年に実施した市民アンケートで「重要」「やや重要」と回答した人の割合 70.6%

指標名	現況値	目標値	備考
満足している人の割合（市全体）	29.0%	49%	「満足」「やや満足」と回答した人の割合
不満を感じている人の割合	我孫子地区	11.0%	8.2%以下 「不満」「やや不満」と回答した人の割合
	天王台地区	10.7%	
	湖北地区	12.7%	
	新木地区	8.3%	
	布佐地区	13.8%	